



ふらり らいふらりい



～図書室にはこんな本があります～

No. 157

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問 4月に亡くなった歌手の「田端義夫」さんに関する資料はないか。

答) 「田端義夫」をキーワードとして検索します。

全資料 → **ことばから調べる** → **田端義夫** 98件該当

以下のような図書・雑誌があります。

『この人この歌 昭和の流行歌100選・おもしろ秘話』(767/Sa25) 開架書棚

『別冊一億人の昭和史 1978年1月』(210.7/B39/1978-1) 開架書棚

『サライ 第17巻第6号』(平成17年3月) (051/Sa69/17-1) 閉架書庫

若き日の田端さんのインタビューや対談、プロマイド等が載っている雑誌もあります。

『平凡 第5巻第9号』(昭和24年9月) (760/H51/5-9) 閉架書庫

『平凡 第6巻第4号』(昭和25年4月) (760/H51/6-4) 閉架書庫

◆映画スチール写真(『凸凹巖窟王』等)は検索画面からそのまま閲覧・拡大できます。

SPレコード音源(『青空道中』等)は5階 映像・音響室の端末で聴くことができます。

※田端義夫: 歌手。大正8年1月1日生まれ。三重県松阪市出身。通称「バタヤン」。

昭和14年デビュー。『大根月夜』等のヒットを飛ばし、戦後は『かえり船』

が大ヒット。「オース」というかけ声と高い位置に構えたギターでおなじみ。

参考: 『新訂 現代日本人名録94』(R281/G34/1994-3) 閉架書庫

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



マッカーサーと鎌倉

昭和20年8月30日に厚木飛行場に降り立ち、26年4月16日に羽田から帰国するまで、連合軍最高司令官として来日したダグラス・マッカーサーは、滞在期間の多くをGHQ本部があった第一生命ビル(現千代田区)と宿舎の米大使館(現港区)で過ごしました。ほとんど私的な外出の記録が残っていないマッカーサーですが、20年9月18日の「読売報知」新聞に、こんな記事が掲載されています。

“厳粛”崩さぬマ元帥 鎌倉八幡宮詣でに示す人格の決意

それは去る二日(9月2日)、あのミズリー號で歴史的降伏調印式の日のことである。その日の午後三時ごろ鎌倉鶴ヶ岡八幡宮社前三の鳥居前に十四名の米軍將官を乗せた濃緑色の自動車がゆるゆると止った、一行は”馬車の乗入れを禁ず”と書かれた制札を見ると自動車から降り、長い砂利道を踏んで拜殿前に参進、先頭の將軍が恭しく擧手の禮拜をすると(それがマ元帥であることが後になって知れた)他の將官たちもそれに倣って嚴かな参拜を行った。(中略)

何の前觸れもない、しかも意外な元帥の参拜に驚いた雜田宮司が慌てて對應すると元帥は通訳を通じて、
『私は四十年前このお宮に参拜したことがある、その時とすこしも變わりない、しかしそのころ君は未だ少年だったらう』などと語り懐かしさうに境内を眺め廻した、その表情や態度は實に穩やかで數時間前行われた降伏調印式のことなど全く感ずることができなかった。(中略) (文字表記は原文のまま)

日露戦争が終わった翌年の明治38年(1905)、父アーサー・マッカーサーは駐日米国大使館付武官となり、ダグラスはその副官として18歳の時に来日しています。その時以来の参拝だったのかもしれませんが。

この外には、マッカーサーの私的行動の記事は今のところ知られていないようです。

(参考図書 『マッカーサーが来た日』(210.76/Ka92 閉架書棚)、『図説マッカーサー』(210.76/So17 開架書棚)

—図書室から—

海野十三関連図書を紹介しています

図書室にて、「海野十三関連図書」を紹介しています。日本のSF文学の始祖ともいえる彼の作品を、どうぞご覧下さい。

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 157

2013年6月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1